

【第七次中期経営ビジョン 3カ年計画】

『2026(令和8)年度～2028(令和10)年度』



～ 目次 ～

	ページ
I 法人理念と基本目標	1
II 長期経営ビジョン	2
III 第七次中期経営計画の施策視点と重点課題	5
IV 第七次中期経営計画3カ年 ビジョン各論	6
V 第七次中期経営計画アクションプラン	8
VI KPI【重要業績評価指標】	33

I 法人理念と基本目標

法人理念：「私たちは、人の幸せを望みます。」

～We Wish a person Well (3Wビジョン)～

【私たちは、常に利用者の方にベクトルを向けて、福祉のプロフェッショナルとして高い倫理観と責任感を堅持し、新たな発想で新たな「幸せ」創りに貢献します。】

基本目標：私たちは、利用者・家族そして地域に信頼の高い施設・事業所を目指します。

【運営キーワード】

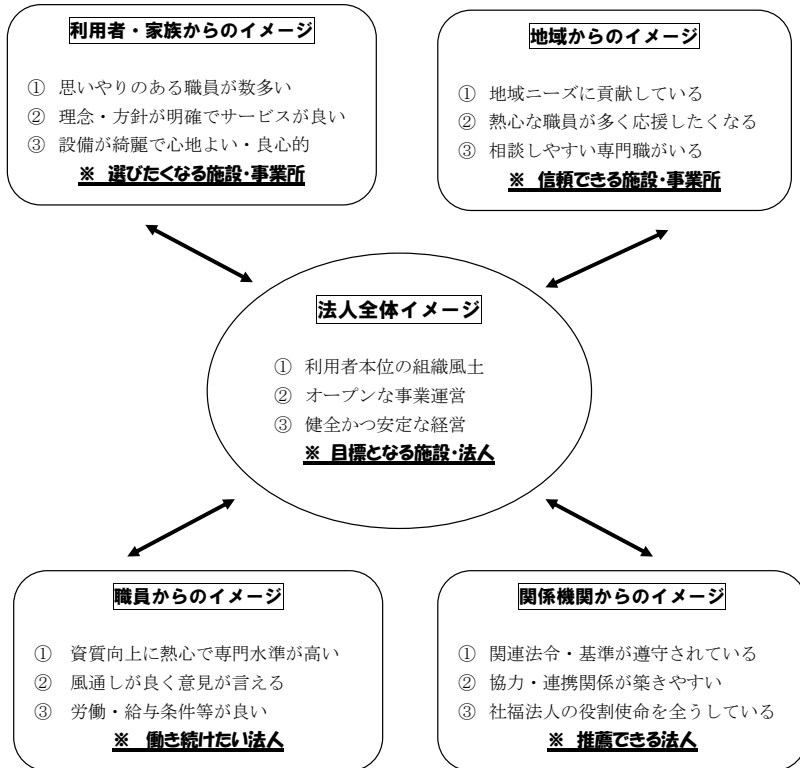


【法人公式ロゴマーク】



II 長期経営ビジョン

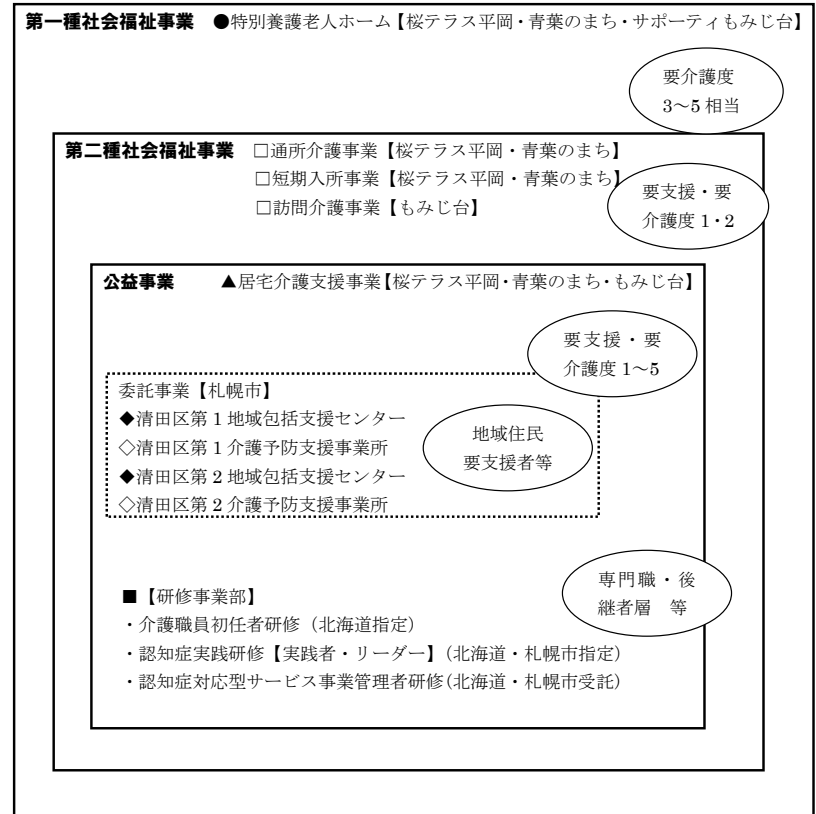
1. 法人イメージ目標



理念：「私たちは、人の幸せを望みます。」

we wish a person well (3Wビジョン)

2. 事業構造



事業提携・協定

- ① フィンランド・シポー市サービスハウス財団との国際交流協定
- ② NDソフトウェア株式会社との ICT 利活用に関する協力協定
- ③ 北海道医療大学看護福祉学部福祉マネジメント学科とのパートナーシップ協定
- ④ 札幌学院大学との「介護職員初任者研修」事業提携

3. 事業目標

① 社会福祉事業（第一種・第二種）

- i) 特別養護老人ホーム
制度改正による待機者減少も予測されます。要介護者及び家族に魅力を感じてもらおうよう、施設ケア改革を行います。
- ii) 短期入所生活介護事業
一度の利用が一生涯の利用者⇒得意客⇒支持者・代弁者となり、潜在利用者を作り出せるように実践します。（特養申込者として確保します）
- iii) 通所介護事業
「この地域で一番」・「このサービスなら一番」を演出します。演出効果・競合等により、利用者定員を見直します。
- iv) 訪問介護事業
モビリティ（移動する力）を活用し付加価値サービスの創設を検討します。

② 公益事業

- i) 居宅介護支援事業
現事業所及び新規事業を含め、規模拡大路線を目指します。利用者がケアマネジャーを選べる運用方法について検討します。
- ii) 地域包括支援センター・介護予防支援事業所
制度動向及び札幌市方針に沿いながら、清田区モデルを構築できるよう関係機関への働きかけを一層強化します。
- iii) 研修事業部
行政指定研修及び委託研修を継続します。社会問題化している課題に対処できる新規事業を創設します。

③ その他

- i) 教育機関・海外施設・他社会福祉法人・行政等の関係機関や企業と事業提携・連携し、法人経営・事業運営にプラス効果を得られるようにします。
- ii) 3拠点により、当該地区で地域資源再開発事業が可能となるよう、現在の施設所在地域の高齢者ニーズを調査し、事業化を検討します。

Ⅲ 第七次中期経営計画の施策視点と重点課題

1 計画の期間

第七次中期経営計画は、2026年度から2028年度の3年間とします。7つのビジョンのもと、アクションプランにより具体的な行動計画を作成しました。また、経営と運営の目標値を定め、向かうべき方向性を示しております。

2 見直しの時期

年1回の内部検証を通して、修正箇所を点検します。第八次中期経営計画は、第七次最終年である2028年度中に、新たに策定します。

		年 度							
		令和7年 (2025)年	令和8年 (2026)年	令和9年 (2027)年	令和10年 (2028)年	令和11年 (2029)年	令和12年 (2030)年	令和13年 (2031)年	令和14年 (2032)年
第六次 中計実 行期間		第七次中期計画・実行期間							
	計画見直し			計画見直し	第八次中期計画・実行期間				
							計画見直し	第九次 中期計画	

3 第七次中期経営計画の視点と重点課題

★計画を実行する上での視点★

- 視点1 「やる」から自信が生まれる【成長】
- 視点2 「行動」が組織を変える【変化】
- 視点3 「諦めない心」が未来を創る【創造】

★本計画の重点課題★

- 重点1 職員待遇の改良と向上
- 重点2 組織における生産性の向上
- 重点3 利用率安定と適正収支差額

IV 第七次中期経営計画3ヵ年ビジョン各論

ビジョン① 専門的及び気配りのある利用者サービス

1. 科学的介護の実践力の精度を高められるよう努めます。
2. 利用者・家族・関係機関・取引企業等に対する接遇・マナーのレベルを高めます。
3. ICT・介護ロボット等の有効活用を継続し、さらなる介護・福祉DXを目指します。
4. 法人の強みを活かしたサービスの充実を図り利用者確保に繋がります。

ビジョン② 満足度が高い家族・地域サービス

1. ICT技術(SNS等)を活用した家族への情報発信を強化します。
2. 家族の意向確認と家族参画の向上に努めます。
3. 地域における公益的取組を復活させ、地域資源利活用の取組を検討します。
4. 地域における福祉避難場所(地域交流スペース)の啓発及び活用を強化します。

ビジョン③ スキルの高い専門家集団の確立と育成

1. 人事考課制度及び職員研修要綱を改定し、職員・役職者のスキルアップを図ります。
2. 介護業務の合理化策及び全職種の業務改善策を立案し励行します。
3. 介護人材の確保のため、多角的な方法による獲得を目指します。
4. 外国人介護人材の採用を検討します。

ビジョン④ 良好な職場環境と風土づくり

1. 正職員給与における既存手当を含めた見直しを行い、基本給を増額します。
2. 傷病有給休暇の見直しや職員の食生活補助等の法定外福利の向上に努めます。
3. 新たな労働条件・雇用形態を模索し、職員ニーズに沿った働き方スタイルを構築します。
4. 介護現場における生産性向上の取組を強化します。

ビジョン⑤ 利用意欲を高める環境整備

1. 各種福祉機器・生成AI等を駆使し、利用者サービス向上と職員の業務負担を軽減します。
2. 熱中症対策のための設備・備品を整備します。
3. 要支援等高齢者の潜在能力を活用したサービス体制を構築します。
4. ICT機器等の積極的活用及びメンテナンス強化等のため、デジタル担当専門職員の配置を検討します。

ビジョン⑥ 期待される社会福祉法人の使命

1. 低所得高齢者世帯や身寄りなし高齢者の施設利用の充実を図ります。
2. 研修事業部における行政指定研修を継続するとともに、モデル地区(施設所在区など)の関係機関職員の資質向上のため、現任専門職を対象とした研修開催を検討します。
3. 法人及び介護のブランド力を構築し、福祉・介護の魅力と対人援助の醍醐味を発信します。
4. 第一種社会福祉事業(特別養護老人ホーム)の重みを活かし、在宅要支援・要介護利用者の特典となる取組を検討します。

ビジョン⑦ 健全かつ安定した経営基盤の確立

1. 次期介護報酬改定を見通し、職員給与及び法定外福利厚生等の充実を図るべく適正な資金収支差額を確保します。
2. 物価高騰による経費支出対策として、保険外利用料の見直しを行います。
3. 会計処理や運営基準の遵守、役職者の権限と責任範囲など内部管理体制(内部監査や日常点検)を強化します。
4. 施設長・部長職の年俸制の導入及び課長職給与の改善等を図り、管理職の責任と対価を明確にします。

第七次中期経営計画 アクションプラン

1 法人経営基盤

項目		I-1 収益管理・資金管理					
実行責任者：		チームメンバー：		行動時期			
経営管理部長		事業推進部長・施設長		△検討・○実行・◎検証			
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 稼働率等事業計画目標値の設定	i) 年度毎の「資金収支差額目標」の明確化による目標共有を継続し、資金繰りの安定化を目指す	○	○	○◎	○	○◎	○
	ii) 年度毎に事業単位の稼働率・利用率等の計画値の明確化を継続し、事業収入の安定確保を目指す	○	○	○◎	○	○◎	○
	iii) 月次決算における差異要因等の迅速な分析把握と対策を継続し、目標達成を図る	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎
② 建替事業後の資金管理	i) 建替事業による現預金減少・借入返済負担開始後の資金繰りを管理する	○	○	○◎	○	○◎	○
	ii) 必要時の資金調達先金融機関を拡大する	○	○	○◎	○◎	○◎	○◎
	iii) 緑愛園跡地の売却を推進し、売却資金による借入金圧縮・資金繰り強化を図る	○◎	○◎				
③ その他	i) 第七次中計の総括を年度毎に行い、確実な遂行を目指す		○	◎	○	◎	○
	ii) PC&デジタル機器管理担当職員の配置を検討する	△	△	○	◎		

項目		I-2 設備投資・業務管理					
実行責任者：		チームメンバー：		行動時期			
事業推進部長		経営管理部長・施設長		△検討・○実行・◎検証			
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 適切な業務整理と運営	i) 各種業務マニュアルを見直し、現場で効果的に活用できる内容とする	△	○	○	○	○	◎
	ii) 内部監査を通じ、運営基準の遵守確認及びサービス提供状況を点検することで、業務管理の適正化を推進する	○	○	○	○	○	◎
	iii) 介護現場における生産性向上を促進するため、職員のモチベーション向上及び進捗管理の強化を図る	△○	○	○	○	○	◎
	iv) 在宅サービス利用者を対象に、無作為抽出によるアンケート調査を実施し、サービスの質及び法令遵守状況の点検を行う	△	○	○	○	○	◎
② AI機器の安全な導入準備	i) AI導入指針等の策定を進めるとともに、人とAIの役割分担を明確にする	△	△	○	○	◎	
	ii) AIの利活用に向けた環境整備を行い、現場運用の平準化を図る		△	○	○	○	○◎
	iii) 法人内デジタル機器管理体制を見直し、運用方法を検討する		△	△	○	○	◎
③ 介護ロボットの効果的な活用	i) 導入済み介護ソフト及びICT機器の活用を拡大する	△	○	○	○	◎	
	ii) 福祉機器の安全利用に向け、維持管理状況の確認と計画的更新に向けた経費予測を行う			△	○	○	◎
	iii) 法人内における各種機器の状況を可視化し、経営効率化に向けた検討を行う		△	○	○	◎	
④ その他	i) 物価高騰に伴う経費支出対策として、保険外利用料の見直しを行う	△○		◎	△	○	◎

項目	I-3 人事管理・労務管理						
実行責任者： 経営管理部長	チームメンバー： 事業推進部長・施設長 介護人材対策課長	行動時期 △検討・○実行・◎検証					
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 賃金制度見直し	i) 正職員の賃金制度を全面的に見直し、基本給を増額した新制度を導入する	△	△	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎
	ii) 正職員の新賃金制度導入に伴い、非常勤職員の賃金制度も必要な見直しを行う(給与水準、同一労働同一賃金)	△	△	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎
	iii) 介護職員等処遇改善等加算の算定による賃金改善を継続し、新賃金制度では求職者にアピールしやすい内容とする	○△	○△	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎
	iv) 施設長・部長職の年俸制導入運用及び課長職給与の改善等により管理職の責任と対価の明確化を図る	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎
② 労務改善・強化	i) 勤怠管理システムを別システムに入れ替える(もみじ台で先行導入後全施設に導入)	△	△	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎
	ii) 新・勤怠システムを有効活用し労務管理の強化や省力化を図る(長時間労働管理や年次有給休暇管理など)	△	△	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎
	iii) 法令を遵守した適切な労務管理体制の構築に向けた社労士の導入を検討する	△	○	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎
③ その他	i) 採用選考方法の見直しと採用基準の明確化を検討する	△	△	○	○	◎	◎
	ii) 人事管理システムの導入を検討する(人事データの一元管理・ペーパーレス化等)	△	△	○	○	◎	◎

項目	I-4 事業連携・事業戦略						
実行責任者： 事業推進部長	チームメンバー： 施設長・相談支援課長 介護人材対策課長	行動時期 △検討・○実行・◎検証					
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 施設入居者の待機者対策	i) 頼れる身寄がない高齢者の受け入れに向け、必要な体制整備を図る	△○	○	○	◎		
	ii) 同業種及び異業種との業務提携を通じた利用者確保策について検討する	△	○	○	○	◎	
	iii) 医療ニーズを有する利用者の受け入れ拡大に向け、必要な体制や課題の検討を行い、取り組みを推進する		△	○	○	○	◎
② 在宅利用者の拡大	i) 介護予防支援事業所の利用者に対し、シナジー効果を創出する企画について検討し、実施する		△	○	○	○	◎
	ii) SNS等を活用したPRを継続するとともに、新たな広報媒体の調査・検討を行う	○	○	○	○	○	○
	iii) 居宅介護支援事業所における運営効率の向上と安定化を図るため、新たな運営方法の検討を行う	△	○	○	○	○	◎◎
③ 研修事業部の運営	i) 認知症介護実践研修受講後のフォローアップ体制を確立する		△	○	○	○	◎
	ii) 現任研修の試行実施を検討し、将来的な研修事業化の可能性を探る		△	○	○	◎◎	
	iii) 札幌学院大学との連携拡大について検討する		△	△	○	○	◎

2 サービス

【 桜テラス平岡 】

領域	Ⅱ-1 個別支援サービス（入居者・家族）						
項目	個別支援の向上						
実行責任者：	チームメンバー：	行動時期					
生活支援課長	施設長・相談支援課長・主任・リーダー	△検討・○実行・◎検証					
細目	行動計画	2026上	2026下	2027上	2027下	2028上	2028下
① 看取り支援の体制強化	i) 施設における看取りケアのあり方を見直し、生活支援との融合を改めて実践する	○	◎△	△○	◎△	△○	◎
	ii) 桜テラス平岡における「看取りケアガイドライン」の策定と職員が不安なく実践できる活用体制を構築する	△	△	○	○	○	◎
	iii) セミナー・ミニマル支援の在り方を検討する	△	△	△	△	△	◎◎
② 認知症介護の再構築	i) 最新の認知症ケアに関する専門知識の獲得と能力の向上を図る	○	◎	○	◎	○	◎
	ii) 認知症に対する知識更新を続け、利用者の世代変化に対応すると共に、安心感を与える『非言語的ケア』の共通認識を確立する	△	◎◎	○	◎	○	◎
	iii) 利用者が家族と共に楽しめる余暇支援を検討し提供する	△	△○	◎△	○	◎△	○
③ チームケア文化の定着	i) 職員が互いに学びあい、支えあう職場風土を醸成する	△	△	△	○	○	◎
	ii) 階層別の職員育成ニーズを視覚化し育成方針を策定の上、実行する	△	△	○	○	○	◎
	iii) 定期的にチーム間交流を行うことで職員が主体的にチーム目標へ貢献する姿勢を確立する	△	◎◎	△	◎◎	△	◎◎

領域	Ⅱ-2 社会資源の発掘及び支援強化						
項目	地域力の活用						
実行責任者：	チームメンバー：	行動時期					
相談支援課長	施設長・生活支援課長・主任・生活相談員	△検討・○実行・◎検証					
細目	行動計画	2026上	2026下	2027上	2027下	2028上	2028下
① 住民に開放された地域交流	i) 「学習と交流」というテーマに沿った地域向け企画を検討し実施する	○	◎◎	△○	◎◎	△○	◎◎
	ii) フリースペースの活用ルールを構築し周知する	△	○	○	○	○	◎
	iii) 地域交流企画と融合した活用方法として施設送迎車両の隙間時間の利用を検討する	△	△	△	△		
② 福祉教育の協同と実践	i) 近隣の教育機関と多様な交流機会を検討し実践する	△	○	△	○	◎	◎△
	ii) 職業体験において仕事の楽しさを実感してもらえよう、受け入れ体制を強化する	△○	◎	△○	◎	○	○
	iii) 福祉専門職による地域向け「防災共同学習交流会」を検討し実施する	△	△	○	○	◎	
③ 地域への施設機能の周知	i) 地域住民の労働意欲に関する調査及び労働力の活用方法を検討し提案する	△	△	△	△○	△○	△○
	ii) 長期間休止していたボランティア受入れに関して体制の整備と受入れを再開する	△	△	○	○	◎	◎
	iii) 桜テラス平岡を地域住民が活用するため、サービス活用事例を周知し提供する	△	○	◎	△	○	◎

領域	Ⅱ-3 サービス環境							
項目	サービス環境							
実行責任者：	生活支援課長	チームメンバー：	施設長・相談支援課長・主任・介護支援専門員・生活相談員					行動時期 △検討・○実行・◎検証
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下	
① 支援体制の構築	i) 移転後の新たな環境における職員の協力的な再構築と実践	△	△○	○	○	○	◎	
	ii) 効率的な働き方を考慮した新しい職種の可能性の検討と提案	△	△	○	○	○	◎	
	iii) 法人理念を「日々の行動」に変えるチームコンセプトの浸透	△	○	○	◎	○	◎	
② 自立支援の在り方の検討	i) 自立支援コンセプトの言語化と職員意識の統一	△	○	○	○	○	◎	
	ii) 施設設備及び環境を活用した支援体制の再構築	○	◎	◎	◎	○	○	
	iii) 選ばれ続ける事業所としての継続的な見直しと改善	△	○	○	◎	◎	◎	
③ 設備の活用	i) 移転と同時に導入した機器について効果的な活用方法の確立と促進	△	○	◎	◎	△○	◎	
	ii) 施設入所と短期入所のベッドコントロールにおける柔軟な受け入れ体制の再構築	△○	○	○	◎△	○	○	
	iii) 業務効率と業務改善のための設備活用に関する提案と検証	△	△	○	○	○	◎	

領域	Ⅱ-4 施設運営の健全化							
項目	施設運営の健全化							
実行責任者：	施設長	チームメンバー：	生活支援課長・相談支援課長・主任・リーダー					行動時期 △検討・○実行・◎検証
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下	
① 職員の定着強化	i) 主任職を中心とした職員自らが創る組織文化の醸成	△	△	○	○	○	◎	
	ii) 「自ら考え行動する」理想の職員像の明確化と共有	△	△	○	○	○	◎	
	iii) 職員間の相互尊重によるハラスメント防止と接遇マナーの定着	△○	◎◎	○	◎	○	◎	
② 利用者の拡大	i) 頼れる身寄りがない高齢者の支援の拡充			△	○	○	◎	
	ii) 若年性認知症ケアに対する知識の標準化と支援体制の土台作り	△	○	○	◎◎	○	◎	
	iii) 施設申込者が安心して待機できるよう「事業所内・施設間連携」の基盤構築	△	△	△	○	◎	◎△	

KPI【重要業績評価指標】

【Key Performance Indicator】

【拠点区分；桜テラス平岡】

D 利用者確保目標値

項目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 事業所間連携件数/年	100件	110件	120件
2 居宅初回加算件数/月平均	10件	11件	12件
3 通所1人あたり利用回数/月平均	7.2回	7.5回	8.0回

E 業務管理目標値

項目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 介護職員職場滞留時間/月平均	190時間	180時間	170時間
2 車両事故発生件数/年	10件	8件	5件

F 利用者サービス目標値

項目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 特養入居者看取り件数/年	10件	12件	15件
2 事故発生件数（特養＋通所）	合計180件	合計170件	合計160件
3 グループ毎入浴累計回数/月	210回	230回	

※ 「A 財務目標値」・「B 事業目標値」・「C 人事労務管理目標値」は、法人全体として最終ページに記載。

領域	Ⅱ-1 個別支援サービス							
項目	個別支援の向上							
実行責任者：	チームメンバー：施設長・相談支援課長・主任・副主任・ユニットリーダー		行動時期					
生活支援課長			△検討・○実行・◎検証					
細目	行動計画		2026上	2026下	2027上	2027下	2028上	2028下
① ICT活用	i) 記録時間の効率化 (生成AI及びボイスファン、ケアパレット等を活用した記録業務の効率化)		◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎
	ii) 施設内のペーパーレス化の実施 (委員会記録・各種報告書、生活支援記録等のほのぼの化、モバイルPC等の拡大)		△	○	○	○	○	◎
	iii) 移乗支援機器の評価と拡大 (Hug、介護リフト、スタンディングリフト等の運用検証と使用範囲の拡大)			△	○	○	◎	
② 生産性向上の推進	i) 3Mによる業務改善 (業務内容のムリ・ムダ・ムラを検証し業務改善を行う)			△	○	○	○	◎
	ii) 5S活動の推進 (安全・清潔・良好な職場環境を構築しモチベーションの向上に繋げる)			△	○	○	○	◎
	iii) 生産性向上委員会の効果的な運営 (利用者の安全と介護の質の確保を図るため、生産性向上に関する協議を行う)		○	◎	○	◎	○	◎
③ QOL向上への取り組み	i) 充実した余暇活動の実施 (全体及び個別の余暇支援を充実することで、生活のメリハリに繋げる)		△	○	○	○	○	◎
	ii) コロナの5類移行後の生活環境整備 (入居者・利用者のQOL向上を意識した感染対策の見直し)		○	◎	○	◎		
	iii) 個別機能訓練の充実 (入院機会の減少を目的とした健康維持の取り組み)		○	◎	○	◎	○	◎

領域	Ⅱ-2 地域との連携						
項目	地域連携と地域貢献						
実行責任者： 相談支援課長	チームメンバー： 施設長・生活相談員・介護支援専門員	行動時期 △検討・○実行・◎検証					
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 地域支援活動	i) 地域向け企画の継続的な実施 (6次中計からの継続で施設主体による地域向け活動の継続実施)	○	◎	○	◎	○	◎
	ii) 地域の公益取組の再構築 (あおば福祉推進協議会解散後の地域活動の再構築)			△	△	○	◎
	iii) 近隣施設・事業所・関係機関との連携強化 (各種関係機関と顔の見える関係性を構築する)		△	○	○	◎	
② ボランティア	i) 定期ボランティアの確保 (車椅子清掃や歌の会などの定期的な活動が可能なボランティアの確保)	△	○◎	○	◎	○	◎
	ii) 学生ボランティアの検討 (大学生のボランティアサークルや近隣の中学・高校への働きかけを強化する)	△	○	○	○	○	◎
③ 防災活動	i) 福祉避難場所の啓発 (回覧板や SNS を活用した定期的な情報発信)			△	○		
	ii) 防災教育の推進 (地震や洪水、停電等を想定した災害時の対応について地域・職員向けに実施)	△	○	△	○	△	○
	iii) 災害を想定した必要備品の設置と点検 (現状の備品を点検し再整備を図る)	△	○				

領域	Ⅱ-3 サービス環境						
項目	支援環境強化						
実行責任者： 生活支援課長	チームメンバー： 施設長・相談支援課長・主任	行動時期 △検討・○実行・◎検証					
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 接遇・マナー	i) 接遇・マナーの向上を目的とした研修と啓発活動の実施 (定期的な研修の実施とポスター等の啓発による意識改善を図る)	△	○	○	○	○	◎
	ii) 自浄作用による接遇・マナーの改善 (自らの気付きやチーム内で指摘ができる組織づくり)			△	○	○	◎
	iii) 内部および外部によるサービスの点検 (内部監査または家族・ボランティア等による評価の検討・実施)				△	○	○
② 外国人材採用	i) プロジェクトチームによる体制整備 (実施内容と役割の明確化、法人との連携、マニュアルの整備)	△○	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎
	ii) 外国人受け入れ機関との連携 (受け入れのための施設内整備、住環境支援、採用への留意事項整備)	△○	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎
	iii) 職場環境の整備 (施設職員向けの日本語・文化等の教育、外国人材への伝達方法の教育)	△○	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎
③ 職場環境の改善	i) 夏場の暑さ対策の実施 (ハード面改善、入居者・職員向けの熱中症予防対策)	△○	◎	△○	◎	△○	◎
	ii) 外部からの見え方を意識したハード面の改善 (物品の置き方、掲示物、経年劣化による破損の点検)			○	◎	○	◎
	iii) 五感を意識したサービス向上の取り組み (見た目を意識した食事、ユニット内の臭い等)	△○	○◎	○	◎	○	◎

KPI【重要業績評価指標】

【Key Performance Indicator】

【拠点区分；青葉のまち】

D 利用者確保目標値

項 目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 新規相談件数(特養) /月	10件	10件	10件
2 入居待機者数(特養) /月	40人	40人	40人
3 体験デイ利用者数(通所) /月	7人	7人	7人
4 居宅新規給付件数(居宅・予防)/月	5件	5件	5件

E 業務管理目標値

項 目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 職員外部研修派遣数/年	10人	13人	13人
2 ペーパーレス化実施数/年	7項目	5項目	3項目
3 3Mによる業務改善実施件数/年	6件	6件	6件

F 利用者サービス目標値

項 目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 ボランティア活動参加延人数/月	25人	30人	35人
2 インスタグラムアップ数/年	72回	80回	80回
3 地域公的取組実施企画数/年	8回	10回	12回

※ 「A 財務目標値」・「B 事業目標値」・「C 人事労務管理目標値」は、法人全体として最終ページに記載。

領域	Ⅱ-4 施設運営の健全化						
項目	施設運営の健全化						
実行責任者：	チームメンバー：	行動時期					
施設長	生活支援課長・相談支援課長・主任・副主任・リーダー	△検討・○実行・◎検証					
細目	行動計画	2026	2026	2027	2027	2028	2028
		上	下	上	下	上	下
① 職員の定着化	i) 職場環境改善アンケートの実施と改善状況の見える化 (日常的な改善要望事項と向き合い、可視化を図ることでモチベーションの向上に繋げる)	○	◎			○	◎
	ii) 衛生委員会と連携し、実態と申告の乖離がある時間外労働の削減 (慢性的な時間外の出退勤に対し、改善策を検討する)	○	◎			○	◎
	iii) 施設独自の福利厚生者の検討 (喫茶・売店の活用方法、フード自販機等の検討、衛生委員会との連携)	△○	△○	△○	△○	△○	◎
② 利用者の拡大	i) 空床ベッドの活用拡大に向けた取り組み (効率的なベッド運用の検討と受け入れ体制の整備)	△○	○	○	◎		
	ii) ICT 技術を活用した情報発信の促進 (SNS の発信力強化、データ連携システム活用の検証とPR)	○	◎	○	◎	○	◎
	iii) 新規利用者の獲得 (頼れる身寄りがいない高齢者受け入れの検討、生活保護受給者受け入れPRの強化、重介護高齢者の通所利用を検討)	○	◎	○	◎	○	◎

【 サポート・もみじ台 】

領域	Ⅱ-1 サービスの向上						
項目	サービスの向上						
実行責任者：	チームメンバー：施設長・相談 生活支援課長 支援課長・主任・生活相談員・ リーダー		行動時期				
細目	行動計画		△検討・○実行・◎検証				
	2026	2026	2027	2027	2028	2028	
	上	下	上	下	上	下	
① 認知症ケアの 推進	i) 認知症支援及び職員の資質向上を目的とした、各種認知症研修の継続的な受講促進を図る		○	○	○	◎	
	ii) PEAP 指針の継続活用及び定点観測を通じ、高齢者が安心して過ごせる空間づくりを提供する		○	◎	○	◎	○ ◎
	iii) チームケアによる認知症支援体制の強化を図るため、実践力を高める仕組みを構築する		○	○	○	○	◎
② サービスの 充実	i) 入居者及び家族、来館者等への接遇マナーの向上を図る		○	◎	○	◎	○ ◎
	ii) アドバンス・ケア・プランニングを継続的に実践し、入居者が安心して生活できる施設を構築する		○	◎	△○	○	○ ◎
	iii) 入居者及び家族による、施設運営の参画を強化する		△	○	○	◎	○ ◎
③ ICT利活用の 推進	i) 見守り支援機器増設により、入居者の安全な居住環境を構築する		△	○	○	○	○ ◎
	ii) ケアパレットを導入し、在宅利用者への迅速なサービス提供体制を整備する		○	◎			
	iii) 介護ソフト及び通信機器等の ICT ツール活用を強化する		○	◎			

領域	Ⅱ-2 地域支援・地域活動						
項目	地域支援・地域活動						
実行責任者：	チームメンバー：施設長・生活支援 相談支援課長 課長・生活相談員・介護支援専門員		行動時期				
細目	行動計画		△検討・○実行・◎検証				
	2026	2026	2027	2027	2028	2028	
	上	下	上	下	上	下	
① 地域との 連携	i) 地域内の他法人与発足した団体における要綱の整備及び組織化を促進する		○	◎	○	○	○ ◎
	ii) 小中学校及び高校における福祉教育支援に向けた取り組みを継続する		△	○	○	◎	
	iii) 地域交流スペース(福祉避難場所)の新たな活用について検討する(クールシェルター等)		△	△	○	○	○ ◎
② ボランティアの 拡充	i) 訪問介護及び通所介護利用者ならびにその家族によるボランティア活動への参画を推進する				△	○	○ ◎
	ii) ボランティアに対する支援制度を構築する		△	○	○	◎	
	iii) こどもボランティアの受け入れについて検討し募集する					△○	◎
③ 地域活動の 拡充	i) 地域内他法人と協働したイベントの開催(盆踊り、アイスキャンドル制作等)		○	◎			
	ii) 地域交流スペースやカフェを活用したイベントを実施する(完全調理済食品の試食、熱中症対策等)		△	△	○	○	○ ◎
	iii) 幼稚園児及び小学生等を対象とした、長期休暇期間中のイベントを開催する		△	○	○	◎	

領域		Ⅱ-3 業務改革					
項目		働き方改革の具現化					
実行責任者： 施設長		チームメンバー：生活支援課長・ 相談支援課長・主任・リーダー・ 管理栄養士		行動時期 △検討・○実行・◎検証			
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 生産性の向上	i) 継続業務及び廃止業務の精査を行い、施設全体における業務改善項目を抽出する	○	◎	○	◎	○	◎
	ii) 生産性向上委員会を立ち上げ、加算の取得を図る	○	◎				
	iii) 5S活動を継続し、さらに働きやすい職場環境づくりを推進する	○	◎	○	◎	○	◎
② 食事提供方法の再検討	i) ユニットにおける食事調理及び提供方法について検証する	△	◎				
	ii) 厨房調理復旧に伴う人員体制及び課題点について検討する			△	◎		
	iii) 厨房再開に向けた環境及び人員体制の整備について検討を進める			△	○	○	◎
③ 業務効率化の促進	i) 施設独自マニュアルの精査及び改訂を行う	△	○	○	◎		
	ii) 全職種における超過勤務時間を把握し、削減に向けた対策を検討する	○	◎	○	◎	○	◎
	iii) AI機器等を活用し、業務効率化を推進する	○	◎	○	◎		

領域		Ⅱ-4 施設運営の健全化					
項目		施設運営の健全化					
実行責任者： 施設長		チームメンバー： 生活支援課長・相談支援課長・ 主任・生活相談員		行動時期 △検討・○実行・◎検証			
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 職員の定着化	i) 各種会議及び研修へのリモート参加を促進する	△○	◎				
	ii) 職員福利厚生充実を図るため、必要な環境整備を進める	△	○	○	◎		
	iii) 職員のストレス緩和を目的として、柔軟性のあるユニット配置を継続的に実施する	○	◎	○	◎	○	◎
	iv) ストレス緩和に向け、専門医及び相談機関に関する情報提供並びに紹介体制を構築する	△	△	○	○	○	◎
	v) 日払いバイトや短時間勤務を含む柔軟な職員体制を可能とする人員体制及び採用支援制度を構築する	○	○	○	○	○	◎
② 利用者の拡大	i) 頼れる身寄りがない高齢者の受け入れについて検討し、体制整備を進める		△	○	○	○◎	
	ii) 医療ニーズの高い入居希望者の受け入れを推進する	○	○	○	○◎		
	iii) 訪問介護における、完全調理済み食材の導入について検討する		△	△	○◎		
	iv) SNSの活用を検証し、施設及び在宅事業所における新たな情報発信手法の検討を進める		△	△	○◎		

KPI【重要業績評価指標】

【Key Performance Indicator】

【拠点区分；サポーターティ・もみじ台】

D 利用者確保目標値

項目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 入院空床ベッド日数(特養)/月	108.3日	104.2日	100日
2 居宅新規相談件数/年	93件	95件	97件

E 業務管理目標値

項目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 施設介護正職員超過勤務時間数/月	8.9時間	8.6時間	8.3時間
2 訪問介護正職員超過勤務時間数/月	3.3時間	2.9時間	2.5時間
3 居宅職員(正)超過勤務時間数/月	3.7時間	3.3時間	2.9時間

※超過勤務時間数は一人あたりの平均とする

F 利用者サービス目標値

項目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 家族来館者数/月	500人	508人	516人
2 地域公益取組実施回数/年	25回	26回	27回

※ 「A 財務目標値」・「B 事業目標値」・「C 人事労務管理目標値」は、法人全体として最終ページに記載。

領域	Ⅱ-1 地域包括支援センター機能強化							
項目	運営方針遂行の強化							
実行責任者	チームメンバー			行動時期				
	包括センター長			△検討・○実行・◎検証				
細目	行動計画		2026上	2026下	2027上	2027下	2028上	2028下
① 地域包括ケアシステムの実現	i) R8年度から区保健福祉課の体制変更に伴う、包括相談機能を強化する		△	○	△	○	△	○
	ii) 地域支援プランを継続的に推進する体制を構築する		△	○	△	○	△	○
	iii) R8年度地域ケア会議の体制変更に伴い、効果的な活用と推進強化を図る		△	◎	△	◎	△	◎
② 外部機関との連携	i) 医療系・障がい系機関との地域支援における共同と連携を強化する		△	○	△	○	△	○
	ii) 関係機関と協働し地域アセスメントの推進強化を図る		△	○	△	○	△	○
	iii) 包括的・継続的ケアマネジメントの推進により、各事業所と地域支援にかかる課題などの共通認識を深める		△	◎	△	◎	△	◎
	iv) 同区や他区市町村の医療機関と清田区内の関係機関の連携を図る		△	○	△	○	△	◎
③ 地域組織との連携	i) 地区組織と共にチームオレンジ活動を通じて、家族介護者に対する認知症支援を行う		△	◎	△	◎	△	◎
	ii) フレイル改善マネジャーの活動を継続し、地域に向けて介護予防の大切さをアプローチする		△	◎	△	◎	△	◎
	iii) 認知症や多問題状況の課題解決に向け、個別地域ケア会議や地区・地域ケア会議の活用および地域組織との連携を強化する		△	◎	△	◎	△	◎

KPI【重要業績評価指標】

【Key Performance Indicator】

【拠点区分；清田区第1・第2地域包括支援センター】

領域	II-2 組織運営						
項目	組織運営の強化						
実行責任者：	チームメンバー		行動時期				
	包括センター長：センター長・包括主任・全職員		△検討・○実行・◎検証				
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 再委託 件数の 確保	i) 再委託件数を管理し、職員が地域活動や専門職活動に取り組みめる環境づくりを行う	○	◎	○	◎	○	◎
	ii) 再委託を通じ居宅介護支援事業所と共に予防給付の在り方を学ぶことで互いの質の向上を図る	△○	△○	○	○	○	◎
	iii) 法人内の居宅介護支援事業所との日常的な相談を通じ、学びを共有することで再委託の受け入れを含めた連携強化を図る	△	△	○	○	◎	◎
② 職場 環境 の 効率 化	i) ICT機器の導入に向け、安全性および費用対効果を協議した上で導入・活用し、業務効率化を図る	△○	△○	△○	△○	◎	◎
	ii) ICT機器等を活用し、超過勤務コストの削減を行う	△○	△○	△○	△○	◎	◎
	iii) 働きやすい環境づくりに向け、早出・遅出勤務を活用し、業務の実情に合わせた労務管理を行う	△○	△○	△○	△○	◎	◎
	iv) 新人職員の定期面談および伝達済内容を可視化し、個人スキル向上プログラムの推進を図る	△	△	△○	△○	◎◎	◎◎

D 利用者確保目標値

	項 目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1	地域住民・関係機関などへの情報提供活動回数/年	300回	310回	320回

E 業務管理目標値

	項 目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1	包括・予防給付再委託率/年	20.5%	20.5%	20.5%
2	記録業務の削減時間数 (担当者会議録)/年	106時間	133時間	172時間
3	記録業務の削減時間数 (事業所報告入力)/月	24時間	30時間	39時間

F 利用者サービス目標値

	項 目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1	地域包括支援ネットワーク構築に向けた連携等/年	250回	260回	270回
2	認知症に関する相談件数/年	220件	230件	240件

※ 「A 財務目標値」・「B 事業目標値」・「C 人事労務管理目標値」は、法人全体として最終ページに記載。

3. 職員労働環境

項目		Ⅲ-1 職場環境・福利厚生・労使連携					
実行責任者： 経営管理部長		チームメンバー： 事業推進部長・施設長 ・介護人材対策課長		行動時期 △検討・○実行・◎検証			
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 新たな働き方の検討	i) 収入確保要望への対応検討(ダブルワークなど)	△	△	○	◎	◎	◎
	ii) 在宅ワーク要望への対応検討	△	△	○	◎	◎	◎
	iii) 週休3日制又は2.5日制の検討	△	△	○	◎	◎	◎
② 福利厚生・健康管理	i) 福利厚生制度の整理と周知	○	○				
	ii) 福利厚生制度の課題解消と充実化	△	△	○	◎	◎	◎
	iii) 健康維持支援策の強化(長期間の病気や怪我に対応した傷病有休休暇制度の見直しなど)	△	○	◎	◎	◎	◎
③ 労使連携	i) 職員組合と法人間における経営情報の共有化と推進	○	○	○	○	○	◎
	ii) 職員定着化に向けた対策と連携の強化	○	○	○	○	○	◎

項目		Ⅲ-2 職員育成・自己啓発					
実行責任者： 事業推進部長		チームメンバー： 施設長・課長・介護人材対策課長		行動時期 △検討・○実行・◎検証			
細目	行動計画	2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 職員育成	i) 職員育成を効果的に実施するため、職員研修要綱の見直しを行う (要綱改定・キャリアパスフレームの更新)	△○	◎				
	ii) 役職者のスキルアップに向けた施策を立案し、実施する		△	○	○	○	◎
	iii) 利用者・家族から信頼される事業所づくりに向け、接遇力の強化を推進する	△	△	○	○	○	◎
	iv) 福祉専門職としての倫理・価値観を深化させるとともに、組織倫理の醸成を図る		△	○	○	○	◎
	v) 介護現場におけるOJT/OFF-JTの充実・強化を図り、専門性と実践力の向上に繋げる		△	○	○	○	◎
② 自己啓発	i) 各種資格取得を支援するため、受験対策講座を企画・実施する	△	○	○	○	○	◎
	ii) 学習教材の工夫・充実を図り、職員が自主的に学べる環境づくりを推進する		△	○	○	○	◎
	iii) 各種団体に対し、外部講師の積極的な派遣を進める(指導的立場にある職員の外部講師としての活動を通じ、指導力及び専門性の向上を図る)	△	○	○	○	○	◎
③ 専門研修の受講促進	i) 認知症介護実践者(リーダー)研修の受講促進を図り、職員の能力開発を推進する	○	○	○	○	○	○
	ii) 専門研修受講後の理解度確認と振り返り体制を構築し、更なる学びの充実を図る	△	○	○	○	○	◎
	iii) 認知症介護実践者研修指導者の養成と推薦を行い、継続的な人材育成と組織の安定した指導体制の確立を図る	△	○	○	○	◎	

KPI【重要業績評価指標】

【Key Performance Indicator】

項目	Ⅲ-3 人材確保及び定着							
実行責任者： 介護人材対策課長	チームメンバー： 経営管理部長・事業推進部長・ 施設長・課長・主任		行動時期 △検討・○実行・◎検証					
細目	行動計画		2026 上	2026 下	2027 上	2027 下	2028 上	2028 下
① 人員の確保策	i) 外国人介護人材の採用検討		△	△	○	◎	○	◎
	ii) 事業連携による奨学金PR強化		○	○	○	○	○	◎
	iii) 採用サイト、SNSによる法人PRの強化		○	◎	○	◎	○	◎
	iv) 求人手法の見直し (アシスト手当増額による職員紹介率の向上、入職準備金増額による直接応募率の向上、潜在介護福祉士の発掘等)			△	○	◎	○	◎
② 職員の定着策	i) 介護人材対策委員会の継続		○	○	○	○	○	◎
	ii) 離職要因分析の継続		○	◎	○	◎	○	◎
	iii) ワークライフバランスにあったシフトの検討			△	○	◎	○	◎
	iv) 新入職員の職場満足度評価と課題把握・対応			△	○	◎	○	◎
③ その他	i) 法人ブランド及び介護職の魅力を可視化し、採用力等の向上を図る		△	○	◎◎			
	ii) リクルートブランディングの再構築を図る				△	△	○	◎◎

A 財務目標値

	項目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1	事業活動収入	1,850,000,000	1,865,000,000	1,870,000,000
2	資金収差額	57,000,000	64,000,000	67,000,000
3	利益率(資金収支差率)%	3.1%	3.4%	3.6%
4	大型投資額	35,000,000	30,000,000	23,000,000

※次期介護報酬改定は、令和9年度。臨時改定が令和8年度に予定。

B 事業目標値

	事業種別	施設別	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1	入所稼働率 (施設+短期)	平岡	96.4%	96.4%	96.4%
		青葉	93.8%	93.8%	93.8%
		もみじ	95.1%	95.1%	95.1%
2	通所介護/1日利用者数 (通常規模)	平岡	27.3名	27.3名	27.3名
		青葉	27名	27名	27名
3	通所介護/月利用者数 (総合)	平岡	30名	30名	30名
		青葉	16名	16名	16名
4	訪問介護/月請求件数 (介護・総合)	もみじ	960時間	970時間	970時間
5	居宅介護支援/月請求件数 (介護+予防)	平岡	286件	286件	286件
		青葉	220件	222件	224件
		もみじ	230件	235件	235件
6	清田区地域包括支援センター 介護予防支援/月請求件数	第1	620件	640件	660件
		第2	980件	1,000件	1,030件

C 人事・労務管理目標値

	項目	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1	離職率(全体) (うち介護職員)	16%	14%	12%
		19%	17%	15%
2	新入職員の1年以内定着率	70%	72.5%	75%
3	民間人材紹介会社経由採用率	25%	22.5%	20%
4	正職員残業時間数/月・平均	7時間00分	6時間00分	5時間00分
5	新卒介護職採用数	2人	3人	3人

※ 「D 利用者確保目標値」・「E 業務管理目標値」・「F 利用者サービス目標値」は、各拠点アクションプラン最終ページに記載。